

- 九戸村では、林業経営体が少なく、手入れの行き届いていない森林の増加が課題となっている。
- このため、住民自らが森林を整備し搬出した間伐材を買い取る「木の駅」の取組を令和5年5月から実施。

□ 事業内容

九戸村「木の駅」プロジェクト

- ・ 村内の間伐材を買い取り、公共施設の薪燃料に活用する「木の駅」の仕組を構築することで、「森林整備の促進」及び「木質バイオマスエネルギーの地産地消」を図る。
- ・ R4年度は施設整備、R5年度は運搬車などの備品整備を実施。

【事業費】 R4年度：12,478千円（全額譲与税）

R5年度：3,062千円（全額譲与税）

【実績】 敷地面積1,378㎡、作業場面積115㎡

間伐材買取材積：117㎡

□ 取組の背景

- ・ 林業経営体の減少や高齢化等により放置された森林が増加
- ・ 若年層の林業への興味関心が薄れ、林業経営体・担い手が減少
- ・ 地域おこし協力隊による自伐型林業の普及推進



（施設全景）



（開所式）



（間伐材の搬入）

□ 工夫・留意した点

- ・ 住民懇談会や林業関係者等と協議を重ね仕組を構築
- ・ 環境保全型の小さな林業についての勉強会を開催
- ・ 住民向けのチェーンソー取扱等の安全研修を実施
- ・ 地域おこし協力隊との連携によりプロジェクト遂行
- ・ 「木の駅」の運営は地元企業に委託

□ 取組の効果

- ・ 村民自らが森林整備を実施し、災害に強く、持続可能で美しい森林づくりを促進
- ・ 木質バイオマスエネルギーの地産地消を推進
- ・ 環境保全型の多様な林業経営体を育成

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：16,722千円	②私有林人工林面積（※1）：2,712ha	
③林野率（※1）：74.9%	④人口（※2）：5,378人	⑤林業就業者数（※2）：53人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より